

## 蒲生干潟の地形調査③⑥

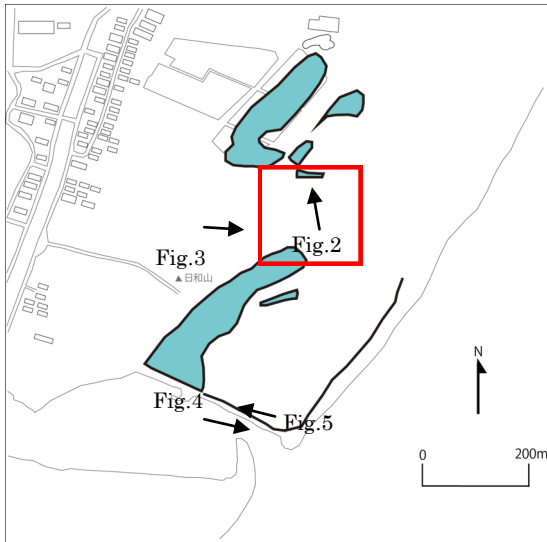


Fig.1 6月のGPS簡易測量結果



Fig.3 南側潟湖の水路



Fig.4 河口付近のようす



Fig.2 南北潟湖をつなぐ水路（南側より撮影）



Fig.5 護岸ブロック 左5月撮影 右9月撮影（東側より撮影）

調査日 2018年9月6日（木）9：40～11：20 ※干潮時刻6：48（潮位41cm）

今回の調査もGPS簡易測量装置の不調により、測量を行うことが出来なかったためFig.1は6月の調査の時の汀線の記録である。台風21号が日本を縦断した翌々日の調査となった。台風による降雨量がかなりあった為、潟湖は大きく拡大していると思われた。しかしながら、潟湖の全体的な面積拡大は見られなかった。Fig.1の□で囲まれた付近では、分断していた南北の2つの潟湖は侵食によってつくられたと思われる水路でつながっていた（Fig.2）。北側の潟湖は6月の結果と同様水位は低く潟湖の面積も縮小していた。南側潟湖は6月の調査と比べ面積や水位の大きな変化は無かったものの、西側からの流れ込みによる侵食によってつくられたと思われる水路が出来ていた（Fig.3）。今回新たに確認された水路は、2つとも1m以上の深さとなっていた。

河口付近では右岸側の砂州が北側に拡大し（Fig.4）河口は狭くなっていたが、砂州の東側（海側）は侵食されていた。また、Fig.5は5月の調査と今回の調査で撮影した護岸ブロックようすからも分かるように、左岸の護岸ブロックの一部にヒビが入っており変形していた。

（中田 晋）